

③ 多文化共生について

名古屋市では、平成 28 年 3 月末現在、外国籍をもつ市民は、人口の約 3%、68,000 人を超えています。国籍も多様化し、国際結婚により生まれた人や海外からの帰国者など、日本国籍であっても外国文化を背景に持つ人々も見受けられ、文化の違いにより様々な課題が生じています。

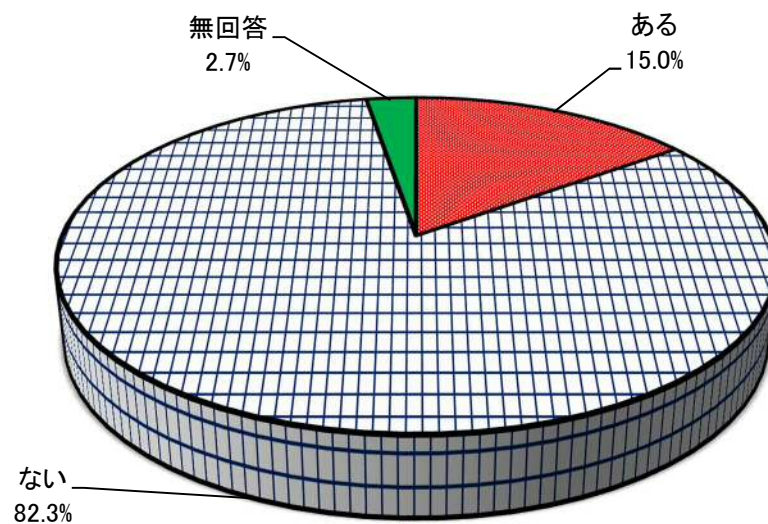
こうした状況について、市民の皆さまのご意見をおたずねし、外国人市民と日本人市民がともに暮らしやすいまちづくりをすすめるうえでの参考とさせていただくものです。

※各図表の「N」は、回答者数を表しています。

問 24 あなたは、外国人と地域や職場・学校などで、トラブルになったり、とまどったりした経験がありますか。(外国人市民の方は、日本人との経験についてお答えください。)

(○は 1つだけ)

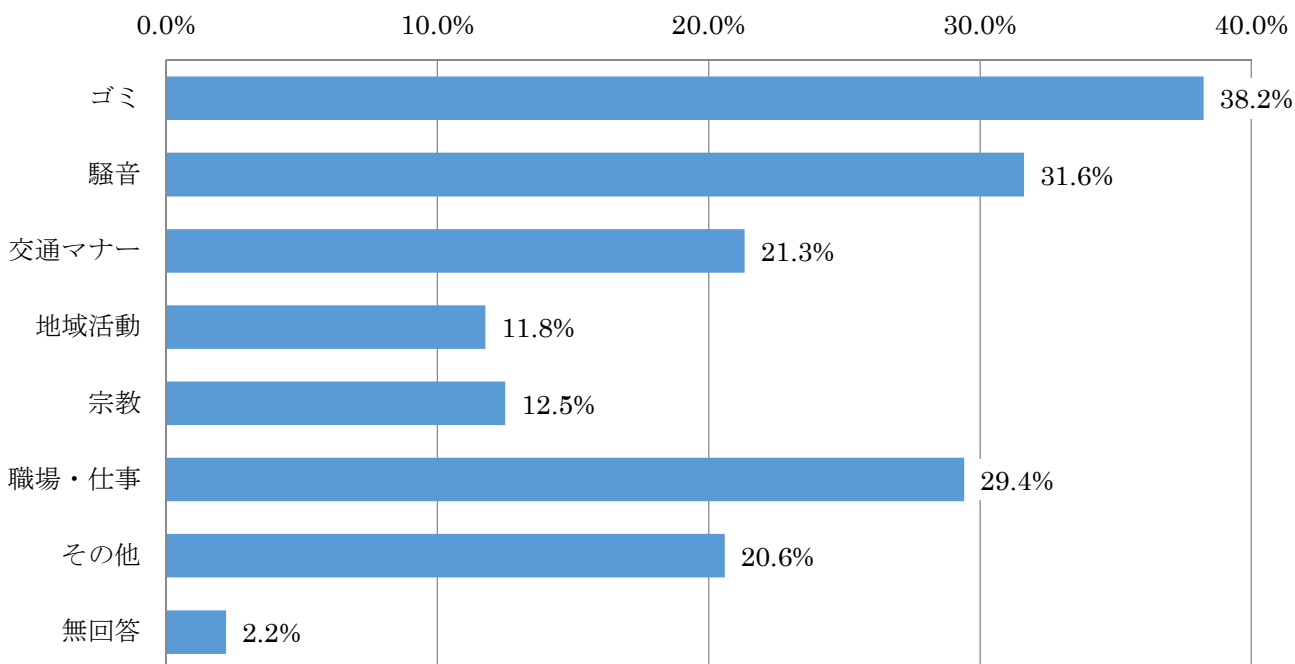
N = 905



《問 24 で1と答えた方（トラブルがあったり、とまどったりした経験のある方）におたずねします。》

問 25 トラブルやとまどった内容は何でしたか。（〇はいくつでも）

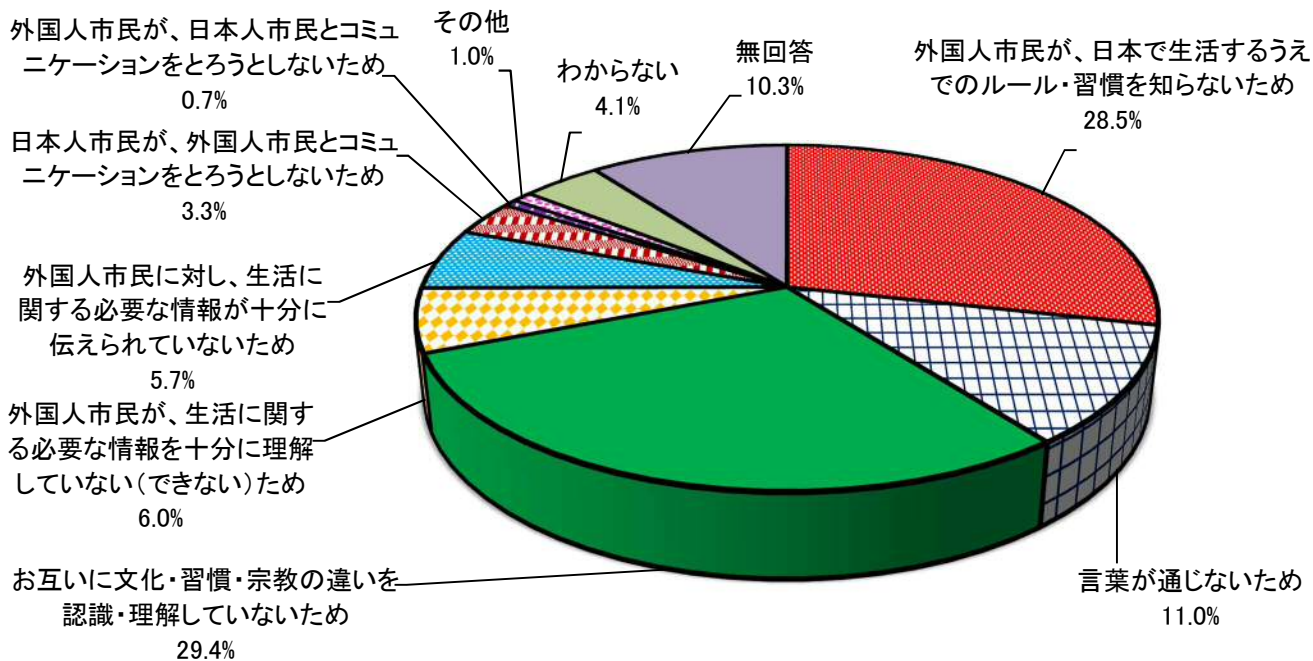
N = 136



《すべての方におたずねします。》

問 26 外国人市民と日本人市民との間にさまざまな問題が発生するなど、ともに暮らしにくい状況がある場合、あなたはどのようなことに原因があると思いますか。（〇は1つだけ）

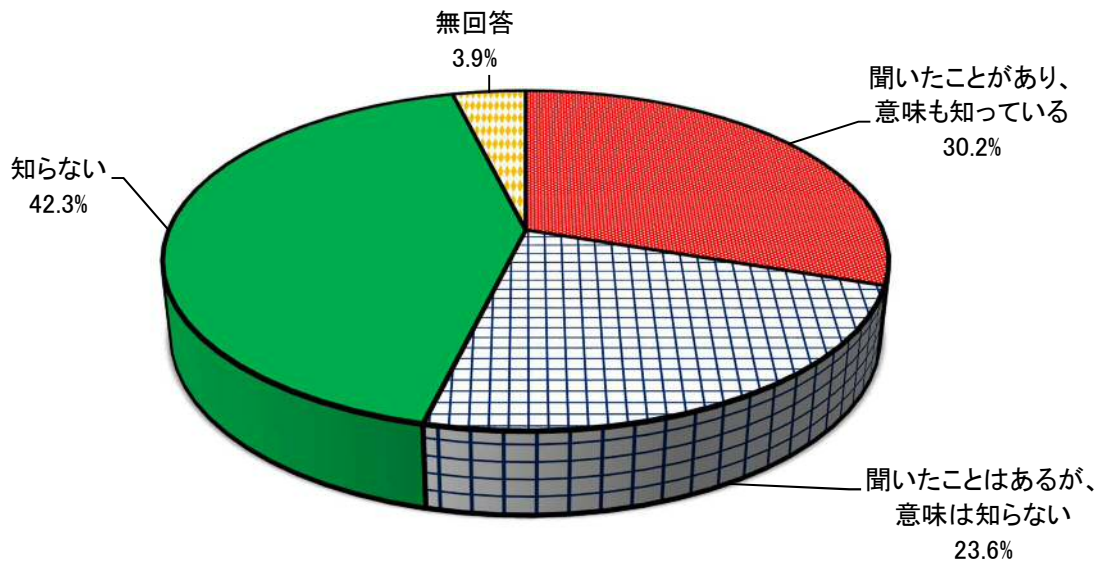
N = 905



「国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員としてともに生きていくこと」を「多文化共生」といいます。
名古屋市では、平成23年度に「名古屋市多文化共生推進プラン」を策定し、外国人市民と日本人市民がともに暮らしやすい多文化共生のまちづくりをすすめており、その実現のためには、市民の皆さまとともに取り組む事が重要であると考えています。

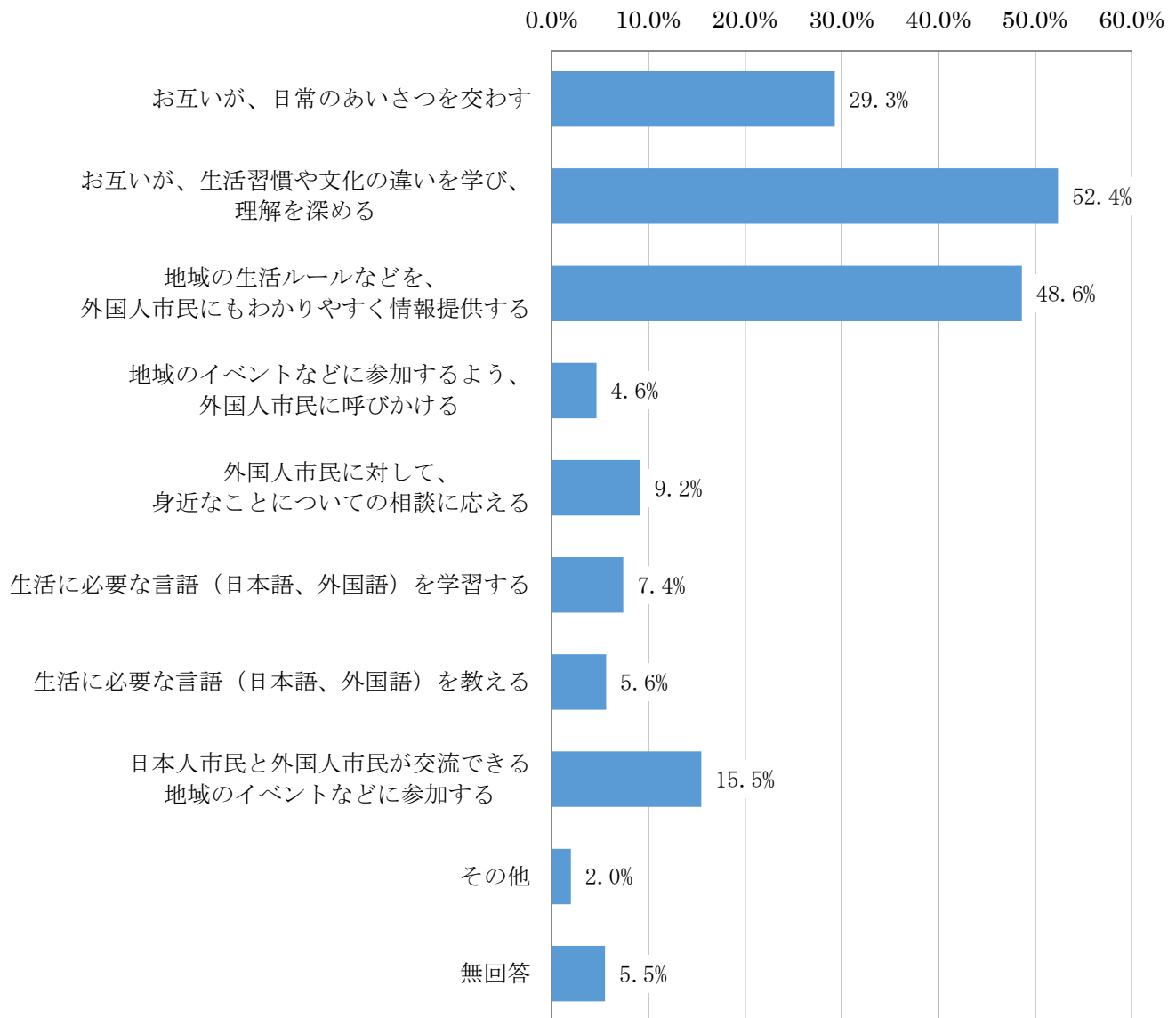
問 27 あなたは、「多文化共生」という言葉を知っていますか。(○は1つだけ)

N=905



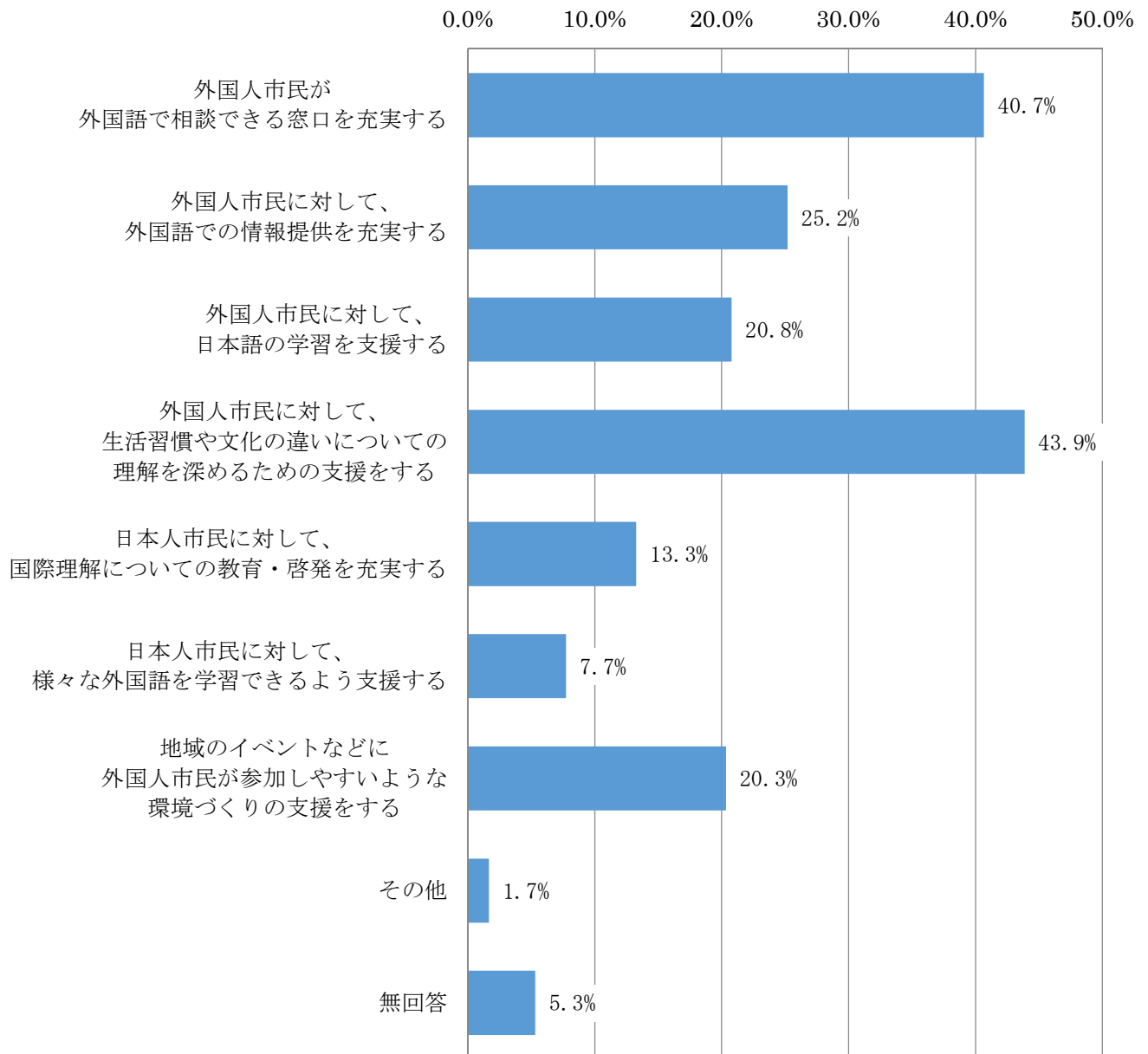
問 28 あなたは、多文化共生のまちづくりを実現するために、市民の取り組みとしてどのようなことが必要だと思いますか。(〇は2つまで)

N=905



問 29 多文化共生のまちづくりを実現するために、名古屋市などの行政がどのような取り組みに力を入れるべきだと思いますか。(〇は2つまで)

N = 905



～国際センターについて～

名古屋国際センターでは、外国人市民への情報提供や相談事業を行うとともに、世界が抱える問題について考える「地球市民セミナー」や、地域の外国人市民と日本人市民が交流を行うイベントを開催しています。

◆ワールド・コラボ・フェスタ（10月、会場：オアシス21）

- ・中部地域最大級の国際協力・交流イベント。地域の国際協力・国際交流団体が日頃の活動の成果をステージやブースで紹介します。

◆地域の国際化セミナー（1月）

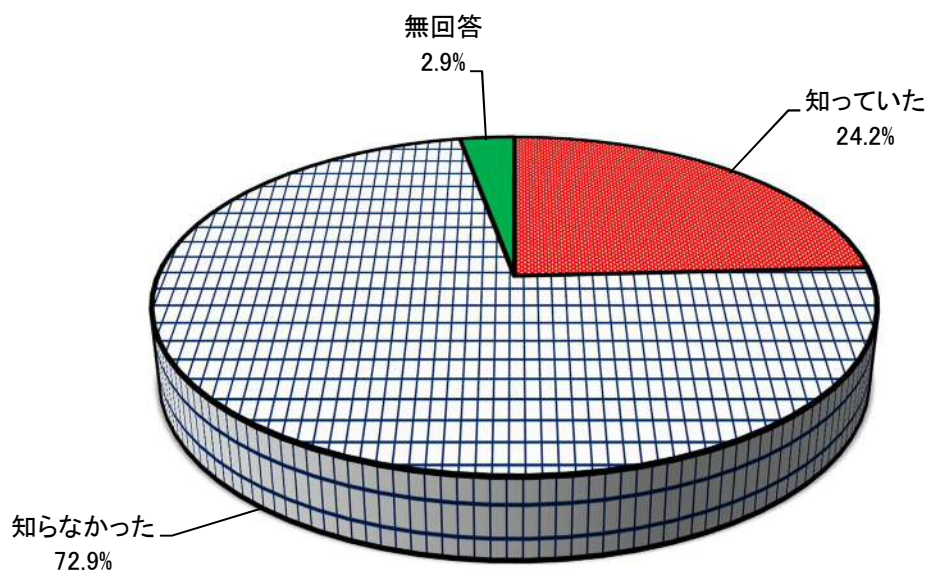
- ・国籍に関係なくともに暮らす地域づくりに向けた方策を探るセミナー。外国人市民が日本社会の一員として生活していく上で必要な支援やこれからの地域社会にあるべき姿について参加者とともに考えます。

◆外国人防災啓発事業

- ・外国人市民に対し、防災や災害についての基本的な知識を提供するため、地域単位で防災啓発イベントや講座などを実施します。

問 30 あなたは、名古屋国際センターで国際交流や多文化共生に関するイベントなどが行なわれていることを知っていましたか。（○は1つだけ）

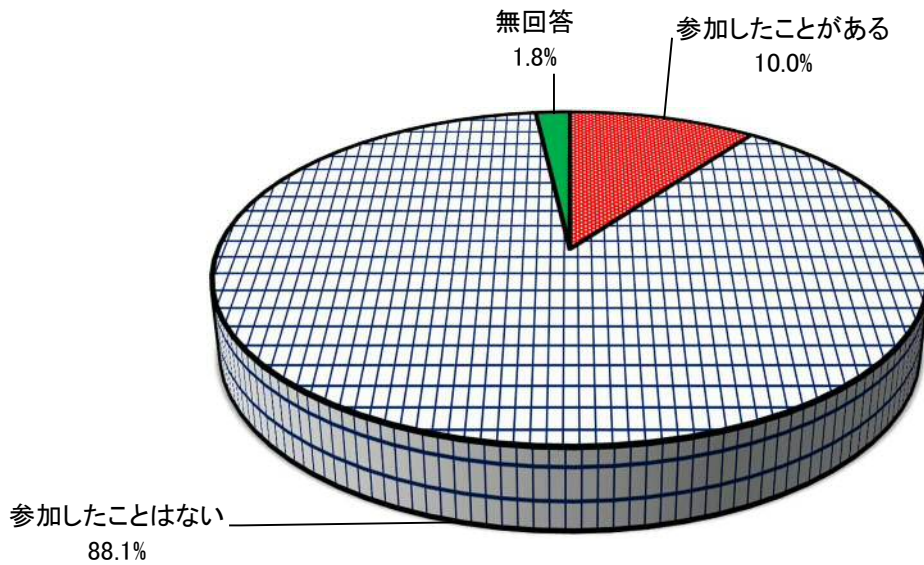
N=905



《問 30 で 1 と答えた方（知っていた方）におたずねします。》

問 31 あなたは、それらのイベントに参加したことがありますか。（○は 1 つだけ）

N = 219



問 32 その他、多文化共生に関して、ご意見・ご要望などがありましたら、ご自由にお書きください。

- 高齢者の多い現社会において、言葉の問題を超えるのは難しい。学生の力を借りる機会があるのなら、交流の場を増やす事ができるのでは。
- 日本人も外国の文化を知る事ができるイベントがあったらおもしろいです。
- 名古屋国際センタービルに入って、いろいろなイベントや交流があることを知りました。
- 相談窓口や施設、セミナー等の機会を増やしても、外国人当人たちが参加したいと思わないと意味がない。条例等によりセミナー参加、説明参加をまずは義務付けて、必要性を理解してもらうことが必要と考える。
- 相互の理解がなければ共生はできない。外国人に日本での生活について学んでもらうと共に日本人も自分たちとは異なる文化を持つ人たちが同じ場所で暮らしているのだという現実を受け入れる努力をすべき。